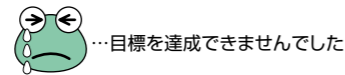
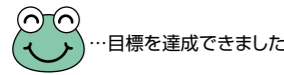


目標達成状況と今後の課題

2006年度は環境目標10項目中5項目を達成しました。目標未達成の主な原因は、1kℓを生産するために必要なエネルギーが多い品目や廃棄物が多く発生する品目の構成比が高まったこと、鮮度追求による多品種少量生産によって生産効率が悪化したことです。生産品目の構成比の変化は消費動向に左右されるため、その変化を上回る改善活動ができるかが今後の課題です。



	2006年度の目標と結果	02年度～06年度の推移	取り組み・達成状況	今後の目標
1	生産部門CO₂削減 生産量1kℓあたり 2004年度対比 2%増加 ▼ 2004年度対比 7.8%増加	■生産活動におけるCO₂排出量 	アルコールの蒸留や洗浄殺菌のために使う蒸気をつくる際に重油やガスを使います。また、生産工程では電力も使用します。日々の省エネ活動やエネルギーの効率利用によりCO ₂ 削減に取り組んでいます。 →ガスボイラーの導入や省エネ活動によりCO ₂ の削減に努めましたが、アルコール蒸留時のエネルギーの増加や多品種少量生産による生産効率の悪化により増加しています。	2007年度目標 2004年度対比 2%増加
2	物流部門CO₂削減 販売数量1kℓあたり 2004年度対比 9%削減 ▼ 2004年度対比 3.8%削減	■物流におけるCO₂排出量 	工場からトラックや鉄道、船舶等で製品を運ぶ際にCO ₂ が発生します。物流の効率化や省エネ運転、モーダルシフトの推進により、物流部門のCO ₂ の排出を抑制しています。 →運送子会社のタカラ物流システムのトラック燃費向上や消費地に近い工場での生産率を高めることにより、工場からの製品物流に伴うCO ₂ 総排出量は削減することができましたが、原単位での目標は達成できませんでした。	2007年度目標 2004年度対比 10%削減
3	生産部門用水削減 生産量1kℓあたり 2004年度対比 8%増加 ▼ 2004年度対比 9.0%増加	■生産活動における用水量 	お酒の原材料として水を使用するほか、装置や容器の洗浄および製品の冷却などにも水を使います。生産工程での水の再利用や節水により用水の削減に取り組んでいます。 →黒壁蔵の芋焼酎増産による原料芋洗浄用水の増加や、アルコール蒸留増産による蒸留冷却水の増加があり、全体では目標を達成できませんでした。	2007年度目標 2004年度対比 6%増加
4	工場廃棄物削減 (副産物含まず) 生産量1kℓあたり 2004年度対比 7%削減 (副産・廃棄物再資源化率99.5%以上) ▼ 2004年度対比 22.7%増加 (副産・廃棄物再資源化率98.0%)	■生産活動における廃棄物排出量 	工場廃棄物の再資源化に取り組み、副産物を含む再資源化率は高い水準に達しています。現在は酒粕、みりん粕などの副産物を除く工場廃棄物排出量の総量削減に取り組んでいます。 →芋焼酎増産による芋くずや蒸留廃液の増加、汚泥減容化装置の一時停止などにより増加していますが、蒸留廃液の飼料化プラントを導入したことにより、2005年度よりは改善しました。	2007年度目標 2004年度対比 19%削減
5	オフィス部門電力使用量の削減 2004年度対比 3%削減 ▼ 2004年度対比 5.3%削減	■オフィスの電力使用量^{※1} 	オフィス内の蛍光灯ごとにスイッチを付けたたり、必要以上に明るい場所の蛍光灯の一部撤去や空調の適温調整などによる電力使用量削減に取り組んでいます。 →電気使用量はその年の寒暖に左右される部分もありますが、目標を上回る削減を達成しました。事務活動の電力使用量削減は社員の省エネ意識の徹底により実現される、社員の環境意識の浸透度を高めるバロメーターと考えています。	2007年度目標 2004年度対比 3%削減

HP 7:工場副産・廃棄物の用途

	2006年度の目標と結果	02年度～06年度の推移	取り組み・達成状況	今後の目標
6	コピー用紙削減 2004年度対比 6%削減 ▼ 2004年度対比 3.0%削減	■オフィスのコピー用紙使用枚数^{※1} 	エコオフィスキャンペーンなどの社内運動を通じてコピー用紙の削減やリサイクルに取り組んでいます。コピー用紙使用量削減は電力と共に社員の環境意識のバロメーターと考えています。 →3%削減しましたが目標を達成できませんでした。	2007年度目標 2004年度対比 10%削減
7	環境配慮型商品の開発 環境配慮型の工夫・仕組みをもつ商品を2品目以上発売 ▼ 環境配慮型の工夫・仕組みをもつ商品を2品目以上発売		製品仕様はすべての環境問題の方向性を決定します。宝酒造では環境配慮型商品を開発、発売していくことで消費者の皆様の手へ渡ってからの環境負荷も削減したいと考えています。 →オールプラスチック製の中栓を採用した松竹梅豪快本醸造を発売したのをはじめ、合計2品目の環境配慮型商品を発売しました。(P22参照)	2007年度目標 環境配慮型の工夫・仕組みをもつ商品を2品目以上発売
8	環境配慮型商品の販売促進 「はかり売り」新規実施10店以上 ▼ 「はかり売り」新規実施10店	■「はかり売り」実施店舗数 	環境配慮型商品の販売量が増加することで環境負荷が低減されます。「はかり売り」の店舗数を増やすことで、商品への容器使用量の削減に取り組んでいます。 →新たに全国で10店の酒販店様ではかり売りをはじめることができました。	2007年度目標 「はかり売り」新規実施店10店以上(全社)
9	営業部門低公害車導入率の向上 低公害車導入率70%以上 ▼ 低公害車導入率80%	■営業車両における低公害車の導入率 	営業部門でも、製品物流と同様に多くの営業用車両を使用しておりCO ₂ や大気汚染物質が排出されます。環境負荷の低減を図るため、燃費の良い低公害車の導入率向上に取り組んでいます。 →支社の営業車を計画的に低公害車に更新することで、低公害車導入率80%を達成しました。また日々の営業活動の中で一人ひとりが省エネ運転を実践しています。	2007年度目標 低公害車導入率80%以上
10	環境コミュニケーション推進 「緑字企業報告書」の配布部数13,000部以上 ▼ 「緑字企業報告書」の配布部数24,988部	■緑字企業報告書の配布部数^{※2} 	緑字企業報告書をより多くの方にお読みいただくことで、宝酒造の環境への取り組みを消費者の皆様にご理解いただくことができると考えています。 →「エコプロダクツ2006」などの環境イベントを通じて配布部数を伸ばし、目標を大幅に上回ることができました。	2007年度目標 「緑字企業報告書」の配布部数13,000部以上

※1 2004年度からは(株)トータルマネジメントビジネス、宝ネットワークシステム(株)の実績も対象にしています
 ※2 02年度～03年度は発行部数

HP 8:工場別サイトレポート